

キャベツの高値をめぐる最近の動向

主事研究員 一瀬裕一郎

1 はじめに

世界的なインフレが続き、わが国でも多くの財・サービスの価格が上昇している。毎日の健康な生活を送るうえで不可欠な食料品の価格も例外ではない。備蓄米の放出等の出来事でコメの価格高騰が話題に上っている。コメと同様に価格高騰で人々の耳目を集めた品目がキャベツである。

2 国内産地からの供給

2024年夏の猛暑や、24年末から25年3月頃にかけての少雨の影響で、24年晩秋以降、国内産地からのキャベツの供給が少ない状況が続いてきた。その傍証として、東京都中央卸売市場月報を元に、月別の卸売数量を図示した(第1図)。

24年6～10月はほぼ前年同月並みの卸売数量であったが、24年11月以降は前年同月よりも15～25%程度少ない水準となっている。

3 小売価格は大幅高

野菜は一般に潤沢な供給がある豊作時や出盛期に価格が下落する一方で、供給が限られる不作時や端境期に価格が上昇する。

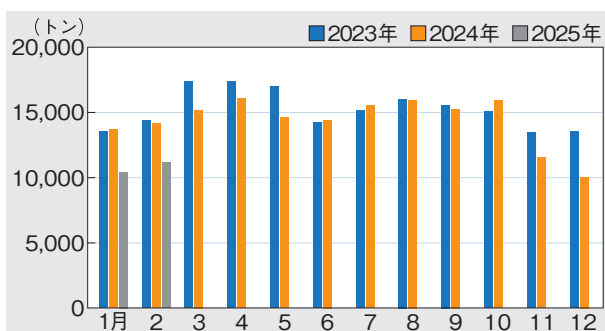
このような供給と価格の関係がキャベツについても当然ながら見て取れる(第2図)。第

1図から前年同月並みの供給があった24年6～10月の小売価格は、前年同月とほぼ同水準である。一方で、前年同月に比べて供給が限られた24年11月以降の小売価格は前年同月よりも大幅に高い水準である。具体的には、前年同月比で24年11月3割高、12月2.14倍、25年1月3.42倍、2月2.39倍、3月2.46倍と推移した。小売価格は25年1月を山として、足元ではピークアウトしたが、それでもなお普段よりも十分に高い水準である。

4 盗難の多発

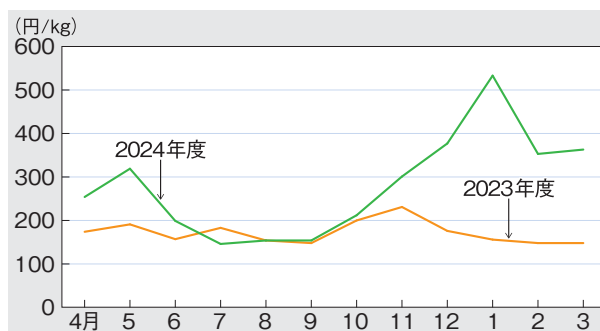
キャベツの供給が限られ、価格が高騰している下で、盗難が多発している。第3図に「キャベツ」および「盗難」を含む朝日新聞の記

第1図 東京都中央卸売市場におけるキャベツの月別卸売数量



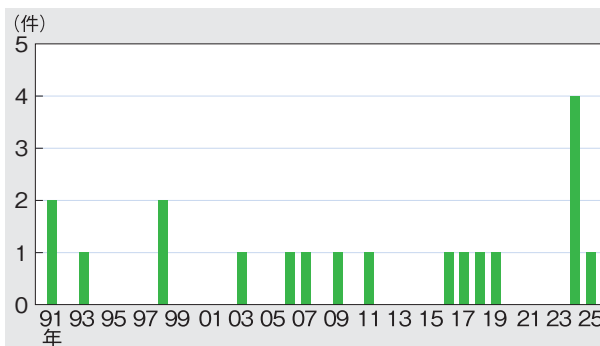
資料 ALIC「ベジ探」(原資料 東京都「東京都中央卸売市場月報」)より農中総研作成

第2図 キャベツの月別小売価格(全国)



資料 ALIC「野菜小売価格動向調査」より農中総研作成

第3図 「キャベツ」と「盗難」を含む記事件数(朝日新聞)



資料 日経テレコン新聞記事検索より農中総研作成 (検索日25年3月4日)

事件数を年次別に図示した。

1991～2025年までに該当する記事は19本あり、うち5本が2024年11月以降に掲載されたものである。キャベツの盗難は過去20数年の中で例をみないほど最近頻発している。

地方新聞の記事を検索すると、24年晩秋以降、茨城県下妻市、結城市、八千代町、愛知県田原市、沖縄県名護市等で盗難被害が発生した模様である。

盗難は紛れもなく犯罪であり、農産物を丹精込めて育ててきた農業者の心中を察するに余りある許しがたい卑劣な行為ゆえ、同様の事案が一日も早くなくなることを期待する。

5 25年初頭に輸入が著増

国内産地からのキャベツの供給が限られるなかで、中国からの輸入が著増した。

財務省「貿易統計」を元に、月別輸入量を図示した(第4図)。25年1月の輸入量は17,484トンで前年同月比42.5倍、2月の輸入量は14,361トンで同42.3倍である。

ちなみに、年間輸入量は23年が11,740トン、24年が22,566トンである一方、25年1～2月は31,845トンであり、わずか2か月で例年の年間輸入量を凌駕した。

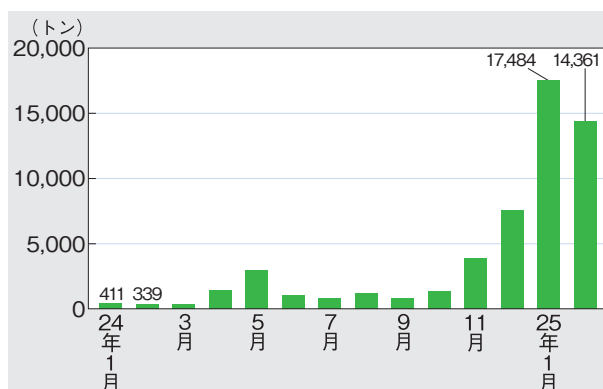
6 実需者の対応

家庭ではキャベツの代わりに相対的に安価な野菜を利用したり、キャベツを使わない献立にしたりするような対応が可能であるが、外食・中食の事業者ではそのような柔軟な対応を取りづらい。ロールキャベツやお好み焼き、とんかつの付け合せ等、キャベツが必須であるメニューで別の食材を使うことは極めて難しいからだ。それゆえ、全国の実需者で様々な涙ぐましいと感ぜられるような努力や対応がなされている(第1表)。

7 今後は供給不足解消で暴落リスクも

25年3月に入ると春らしい暖かい気温の日や、まとまった降雨の日が増えており、春キャベツの主産地である神奈川などで順調に生育している模様である。春キャベツの出荷が

第4図 キャベツの月別輸入数量



資料 ALIC「ベジ探」(原資料 財務省「貿易統計」)より農中総研作成

第1表 キャベツの実需者の対応

事業者	対応
とんかつ玉藤(登別市)	25年の仕入価格が前年比3～4倍に上昇も、キャベツおかわり無料は店の目玉ゆえ、高騰しても継続。
デリカフーズ(足立区)	中食・外食向けカット野菜原料として、国産キャベツと同量の輸入キャベツを利用。
サラダクラブ(調布市)	2025年1～3月の期間、バックサラダを一時的に減量(120g→100g)。千切りキャベツの価格引上げ(100円→130円)。
お好み焼きゆかり(大阪市)	仕入価格が例年の2～4倍へ上昇。芯に近い部分もしっかり使い切るような工夫。

資料 新聞各紙、各社プレスリリース等から農中総研作成

本格化するにつれ、キャベツの供給不足は徐々に解消に向かう可能性が高い。

それどころか、複数産地の出荷時期が重なった場合、一時的に過剰感が生じることも皆無ではなく、その場合にはキャベツ価格の暴落もありうるので、注意が必要である。

一方で、世界的なインフレによって、人件費、物財費、光熱動力費、運送費等の農業生産費は堅調に推移するとみられ、キャベツ価格が構造的に低迷するとは考えづらい。

毎日の生活に不可欠なキャベツのような基本的食料について、安定価格で安定した量を周年供給するために、産地リレー体制の不断の強化、再編の検討が重要だろう。

<主要参考資料・WEBサイト>

- ・農畜産業振興機構ベジ探 <https://vegetan.alic.go.jp/>
- ・農林水産省「野菜生産出荷統計」
- ・一瀬裕一郎「キャベツをめぐる最近の動向」
農中総研公式youtubeチャンネル2025.3.19公開

(いちのせ ゆういちろう)